

宇部市立小中学校適正規模・適正配置計画策定について

1 背景と現状

本市では、少子化の進展により児童生徒数が年々減少し、小・中学校の小規模化が進行しており、教育内容や・教育活動に様々な影響を及ぼす恐れが生じています。

このような状況の中、平成22年4月「宇部市立小中学校の適正配置の検討基準」を定め、この基準に基づき関係する校区で協議会を立ち上げ検討の結果、平成28年に小野中学校と厚東中学校を統合し、厚東川中学校を設立しました。

また、見初小学校の適正配置については、協議の結果現時点では統合しないとの結論が出ている状況です。

しかしながら、継続的に児童生徒数の減少が見込まれる中、最適な教育環境を整え、教育の質の向上を図るために、現在の基準を見直し、中長期的な視点で適正な学校規模や通学区域を検討し、学校配置を全市的に考えていくことが喫緊の課題となっています。

2 趣旨

児童生徒に、最適な教育環境を持続的に提供するため、将来あるべき学校の姿から検討し、そのあるべき姿の実現に向けた学校規模や通学区域を検討し、全市的な学校配置の計画を策定し整備を行っていくものです。

3 本市が目指す教育

本市では、令和4年度から令和8年度の5年間を計画期間とし、教育行政の根幹となる「第2期宇部市教育振興基本計画」を策定しました。

教育大綱では、「自立」と「共存同栄」宇部を愛し、未来を拓くひとづくり」を基本理念に位置づけ、4つの基本目標の1つとして「安心・安全に過ごせる質の高い教育環境を実現します」を掲げており、最適な教育環境を持続的に確保していくため、「宇部市立小中学校適正規模・適正配置計画」を策定し、段階的に整備を進めていくとしています。

4 今後のスケジュール

別紙のとおり

宇部市立小中学校適正規模・適正配置審議会予定

	開催月	内容
第1回	令和4年4月	<ul style="list-style-type: none">・委嘱状の交付・諮問・本市における小中学校の適正規模・適正配置の取組について・小中学校の現状について
第2回	令和4年5月	<ul style="list-style-type: none">・学校のあるべき姿について・小中学校の現状と課題・アンケート（案）について
第3回	令和4年7月	<ul style="list-style-type: none">・学校のあるべき姿と実現に向けた適正規模等について・ワークショップの開催について
第4回	令和4年10月	<ul style="list-style-type: none">・学校のあるべき姿と実現に向けた適正規模等について・アンケートとワークショップ開催結果について
第5回	令和4年11月	<ul style="list-style-type: none">・学校のあるべき姿の実現に向けた適正規模等について
第6回	令和5年1月	<ul style="list-style-type: none">・中間答申案について

【現 宇部市立小中学校の適正配置の検討基準】(平成 22 年 4 月制定)

市街地ブロック(北部ブロック以外)

小学校	1～5 学級 (複式学級が存在)	全体数で 90 人以下 (1 学級あたり 15 人以下)	全体数で 120 人以下 (1 学級あたり 20 人以下)
中学校	1～2 学級 (複式学級が存在)	3 学級 (1 学年 1 学級)	4～6 学級
協議会の 設置目的	統廃合を始めとする 適正配置計画を 2 年 以内に策定し、その後 実施に向けて着手し なければならない。	統廃合を始めとする適正 配置計画について検討を 開始しなければならない。	適正配置計画について協 議会を設置し、協議を行 うことができる。

北部ブロック(厚東、二俣瀬、小野、船木、万倉、吉部地区)

小学校	全体数で 12 人以下 (1 学級当たり 2 人以下) (複式学級で 4 人以下)	3 学級 (完全複式学級)
中学校	1～2 学級 (複式学級が存在)	3 学級 (1 学年 1 学級)
協議会の 設置目的	統廃合を始めとする適正配置計画 について検討を開始しなければな らない。	適正配置について協議会を設置し、協議 を行うことができる。

※地理的・地域的な要素、各学校の状況等から、適正配置の基準を市街地ブロックと北部ブロックに分けて検討基準を設け、住民基本台帳から 6 年後に予測される学級数・児童数が検討基準に該当した学校から協議を開始する。

小野中学校統合までの経過と見初小適正配置の協議経過

- 平成 20 年 4 月～平成 22 年 3 月 宇部市立小中学校適正配置検討協議会設置
- 平成 22 年 4 月「宇部市立小中学校の適正配置に向けた方針」の制定
- 平成 22 年 7 月見初、小野、吉部地区に適正配置に係る関係校区協議会設置

【小野中学校統合経過】

年月日	経過
平成 23 年 4 月 26 日	小野小学校適正配置に係る関係校区協議会において、小野小学校は当面存続し、小野中学校の適正配置に係る協議を早急に開始するという結論を出し終了
7 月 25 日	第 1 回小野中学校適正配置に係る関係校区協議会開催
8 月 19 日	小野地区振興対策委員会に協議会設置の経緯について説明
11 月	小野中学校保護者説明会・小野校区住民説明会の開催
平成 24 年 1 月	小野小中学校と小野保育園に小野中学校の望ましい教育環境に関するアンケートの実施。(少人数になっても存続する 44.4%、統合する 21%、どちらともいえない 32.1%)
3 月 27 日	第 5 回協議会にて小野中学校を存続して学校教育活動を地域で支援していき、5 年後に協議会を設置という意見で集約
4 月 17 日	協議会で集約された意見を元に、教育委員会会議では、生徒数が 20 人以下と予測される平成 26 年度を目処に厚東中と総合計画の策定を開始する方針を決定
5 月 16 日	第 6 回協議会で教育委員会の方針説明→同意得られず
5 月 21 日	小中学校と保育園の保護者に説明→理解得られず
平成 25 年 8 月	小野地区民対象に中学校の統合に係るアンケート実施 →「通学の手段など条件が整ったらやむをえない」「必要と思う」併せて約 6 割→協議会で意見聴取
平成 26 年 1 月	第 9 回協議会で、教育委員会の、生徒数が 20 人以下と予測される平成 26 年度を目処に厚東中と総合計画の策定を開始する方針を追認し協議を終了
10 月	第 1 回小野中学校・厚東中学校統合準備協議会開催
平成 27 年 2 月	第 2 回協議会 開校は平成 28 年度とすることを決定
平成 28 年 4 月	小野中・厚東中を統合した厚東川中学校開校

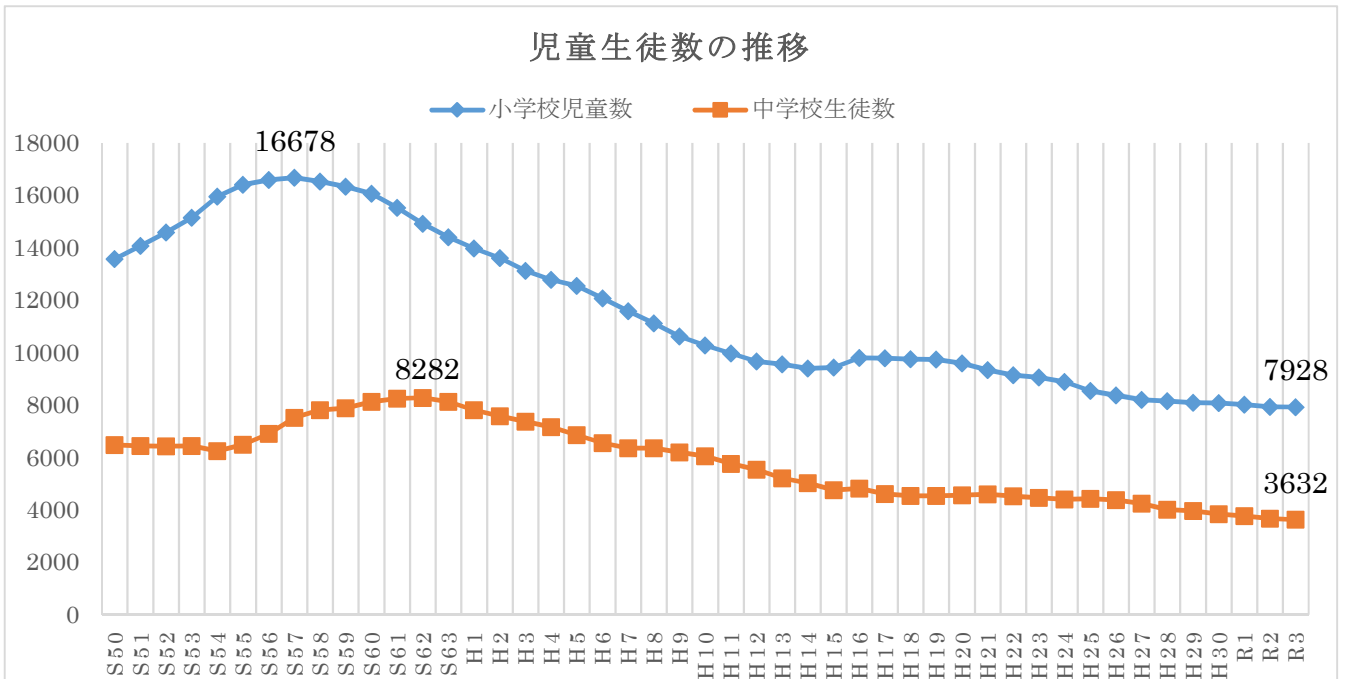
【見初小適正配置の協議経過】

年月日	経過
平成 22 年 7 月～ 平成 24 年 3 月	<p>見初小学校の適正配置に係る関係校区協議会（構成：見初・神原・岬校区代表）6 回開催</p> <p>〔結論〕見初小、神原小の統合に向け、見初・神原校区の新しい学校づくり準備委員会を設置する。岬小は単独で存続する。</p>
平成 24 年 10 月～ 平成 26 年 1 月	<p>見初・神原校区の新しい学校づくり準備委員会（構成：見初・神原校区代表）4 回開催</p> <p>〔結論〕「神原中学校の敷地を活用施設一体型小中連携校」の教育委員会の考え方を追認して終了。新たな組織で協議を進める。</p>
平成 26 年 11 月～ 平成 29 年 11 月	<p>見初小学校・神原小学校統合準備協議会 8 回開催</p> <p>〔結論〕・神原中学校敷地内での 1 中 2 小施設一体型義務教育学校建設に反対</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神原、見初小の単純統合に反対 ・琴芝小学校を加えた 3 小 1 中を提案
平成 29 年 11 月～ 平成 30 年 3 月	<p>教育委員会議を 7 回開催</p> <p>〔結論〕教育委員会としては、2 小 1 中を堅持すべきと考える。しかし、見初校区の賛同が得られない状況の中、見初小の適正配置の原点に立ち返り、見初小と神原小の 2 校の統合を目指す。</p>
平成 30 年 6 月 27 日	<p>3 校区（見初・神原・琴芝）自治連会長連名による要望書提出</p> <p>神原小と琴芝小の敷地を活用した 3 小 1 中による義務教育学校の設置</p>
平成 30 年 7 月～ 12 月	<p>学校統合地元代表者関係会議</p> <p>4 回開催（課題の整理、シミュレーション等）</p>
平成 31 年 2 月～ 令和 2 年 2 月	<p>学校統合準備協議会委員説明会 3 回開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市の方針 <ul style="list-style-type: none"> ①見初小、神原小の先行統合 ②10～15 年後(国庫補助適用・適正規模)に 3 小 1 中による義務教育学校設置
令和 2 年 9 月	<p>見初地区より、保護者の意向を尊重し、先行統合は行わない旨の回答→これにより、3 小 1 中の義務教育学校設置は見送り（白紙）</p>
令和 2 年 10 月 21 日	<p>見初地区の最終決定を受けて 3 地区連合会長へ教育委員会の方針の説明</p>

I 市立小・中学校の状況

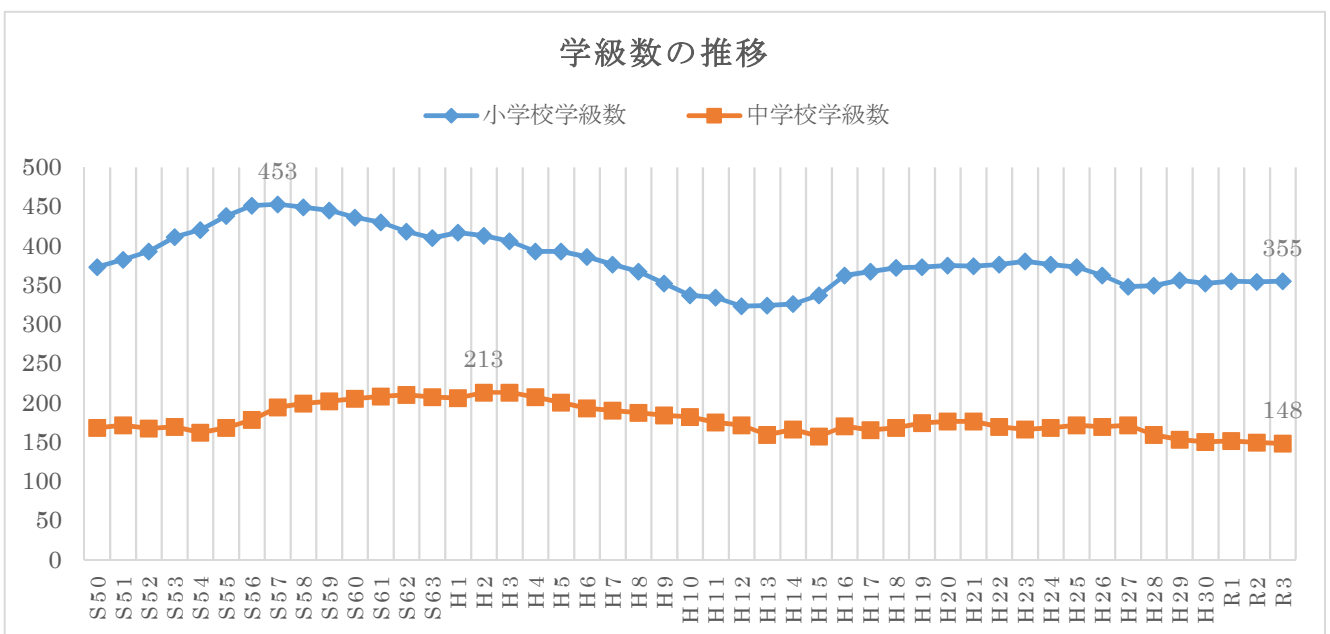
1 小中学校の状況

(1) 児童生徒数の推移



	ピーク時の児童・生徒数	R 3年度児童・生徒数	増減率
小学校	16,678人 (S57年度)	7,928人	△52.5%
中学校	8,282人 (S62年度)	3,632人	△56.2%

(2) 学級数の推移



	ピーク時の学級数	R 3年度学級数	増減率
小学校	453学級 (S57年度)	355学級	△21.6%
中学校	213学級 (H2年度)	148学級	△30.5%

(3) 学校別の児童生徒数と学級数の推移

【小学校の児童数・学級数の比較（過去10年）】

- ・小学校では、過去10年間で児童数は約30%減少している。
- ・児童数・学級数ともに増加している学校もあるが、中心部や北部地域で40%以上減少している学校も見られる。
- ・複式学級も10年間で5学級から12学級に増加している。

学校名	平成23年度(A)			令和3年度(B)			増減率(B-A)/A (%)	
	児童数	学級数 (複式)	特別支援 学級	児童 数	学級数 (複式)	特別支援 学級	児童数	学級数
東岐波小学校	823	26	3	580	19	2	-29.5%	-26.9%
西岐波小学校	665	21	2	680	22	5	2.3%	4.8%
恩田小学校	597	19	2	693	23	3	16.1%	21.1%
上宇部小学校	685	23	4	633	21	5	-7.6%	-8.7%
岬小学校	215	8	4	179	6	4	-16.7%	-25.0%
見初小学校	122	6	3	98	6	0	-19.7%	0.0%
琴芝小学校	412	15	2	283	12	4	-31.3%	-20.0%
神原小学校	270	12	1	343	12	3	27.0%	0.0%
新川小学校	411	15	3	479	16	5	16.5%	6.7%
鶴ノ島小学校	254	11	2	133	6	2	-47.6%	-45.5%
藤山小学校	732	23	2	528	18	2	-27.9%	-21.7%
厚南小学校	591	19	2	559	18	3	-5.4%	-5.3%
原小学校	300	12	1	289	12	3	-3.7%	0.0%
厚東小学校	78	6	1	62	6	1	-20.5%	0.0%
二俣瀬小学校	44	5 (1)	1	25	3 (3)	1	-43.2%	-40.0%
小野小学校	28	5 (1)	1	18	3 (3)	2	-35.7%	-40.0%
常盤小学校	505	17	3	438	16	3	-13.3%	-5.9%
小羽山小学校	439	16	1	327	12	3	-25.5%	-25.0%
西宇部小学校	401	14	2	279	12	2	-30.4%	-14.3%
川上小学校	647	21	3	436	14	3	-32.6%	-33.3%
黒石小学校	497	17	2	678	22	5	36.4%	29.4%
吉部小学校	26	3 (3)	1	23	3 (3)	0	-11.5%	0.0%
万倉小学校	69	6	0	30	3 (3)	1	-56.5%	-50.0%
船木小学校	247	12	2	135	6	2	-45.3%	-50.0%
合計	9,058	332 (5)	48	7928	291 (12)	64	-29.5%	-26.9%

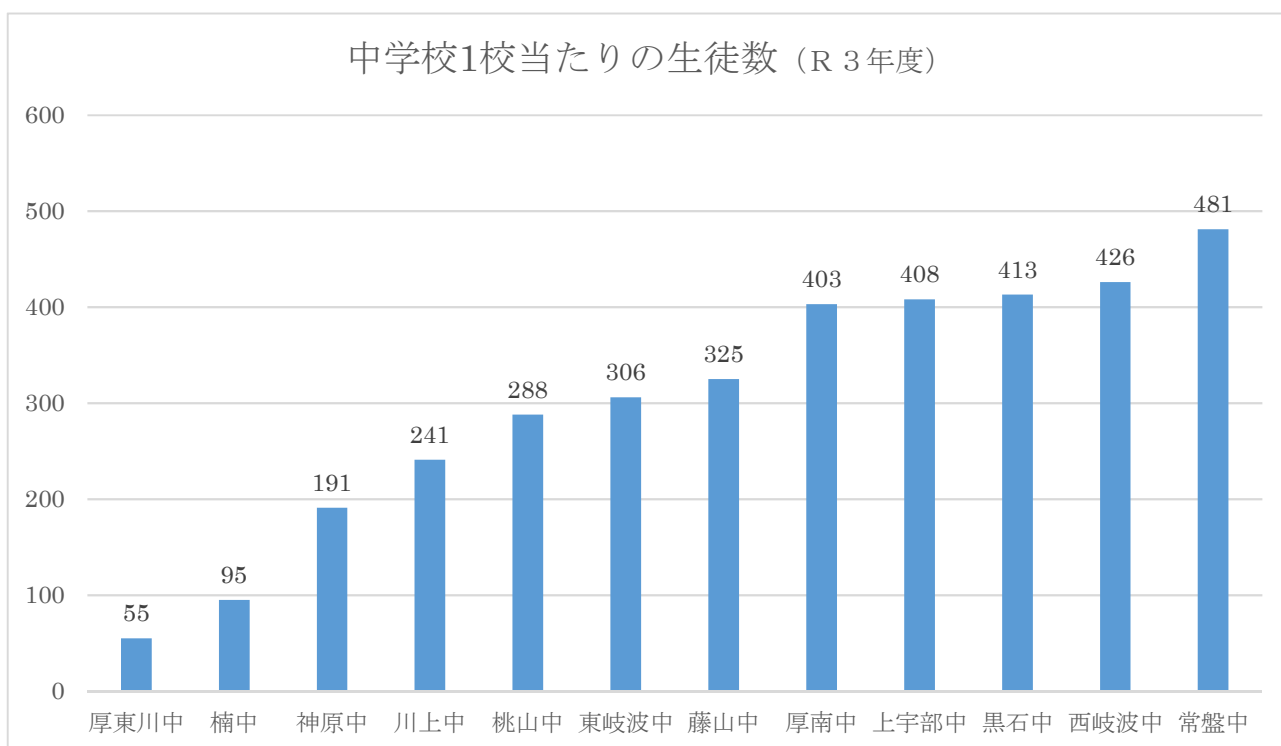
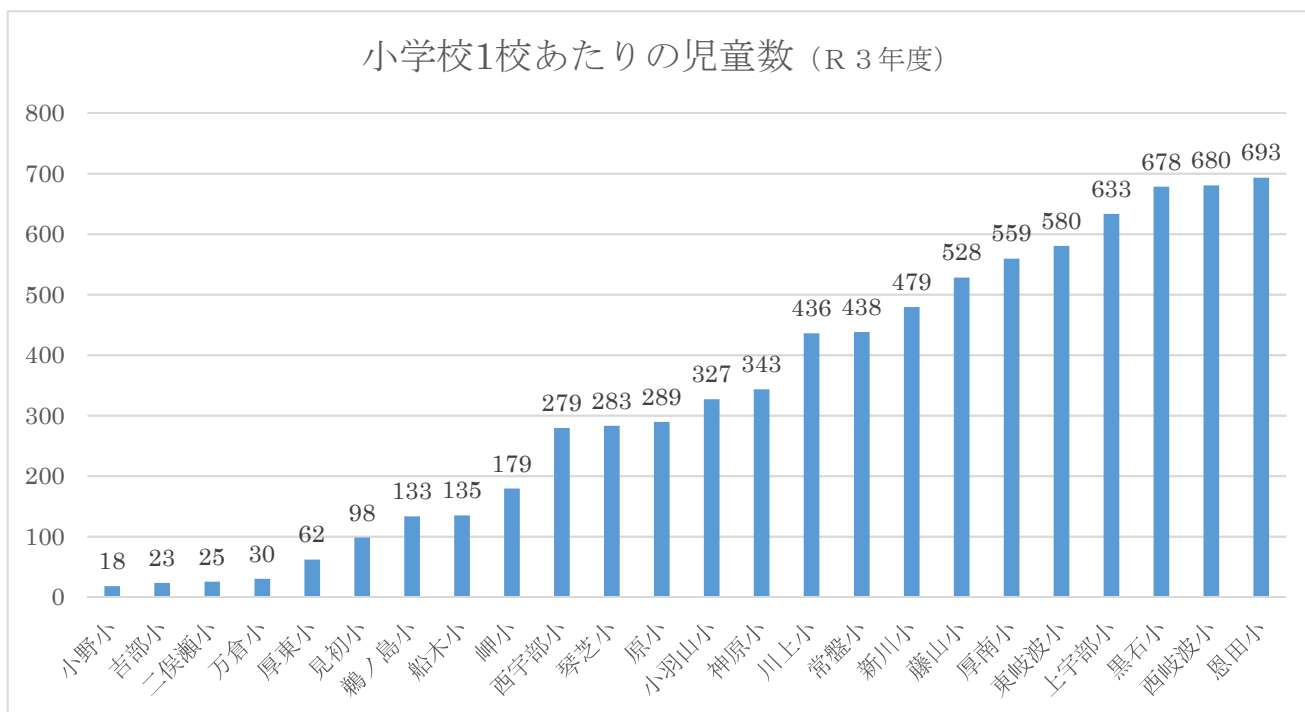
【中学校の生徒数・学級数の比較（過去10年）】

- ・中学校では、1校のみ生徒数が増加している学校もあるが、それ以外では全て減少している。
- ・東部及び北部地域では30%以上生徒数が減少している学校がある。

学校名	平成23年度(A)			令和3年度(B)			増減率(B-A)/A(%)	
	生徒数	学級数 (複式)	特別支援 学級	生徒数	学級数 (複式)	特別支援 学級	生徒数	学級数
東岐波中学校	438	14	1	306	11	2	-30.1%	-21.4%
西岐波中学校	525	16	2	426	13	2	-18.9%	-18.8%
常盤中学校	536	16	2	481	15	2	-10.3%	-6.3%
上宇部中学校	488	15	2	408	13	2	-16.4%	-13.3%
神原中学校	224	8	3	191	6	3	-14.7%	-25.0%
桃山中学校	354	11	2	288	10	4	-18.6%	-9.1%
藤山中学校	428	14	2	325	11	2	-24.1%	-21.4%
厚南中学校	490	15	2	403	12	2	-17.8%	-20.0%
川上中学校	324	10	2	241	8	3	-25.6%	-20.0%
黒石中学校	385	12	2	413	12	4	7.3%	0.0%
楠中学校	189	7	2	95	4	2	-49.7%	-42.9%
厚東川中学校	85	6	0	55	3	2	-35.3%	-50.0%
合計	4,466	144	22	3632	118	30	-18.7%	-18.1%

(4) 学校規模の現状

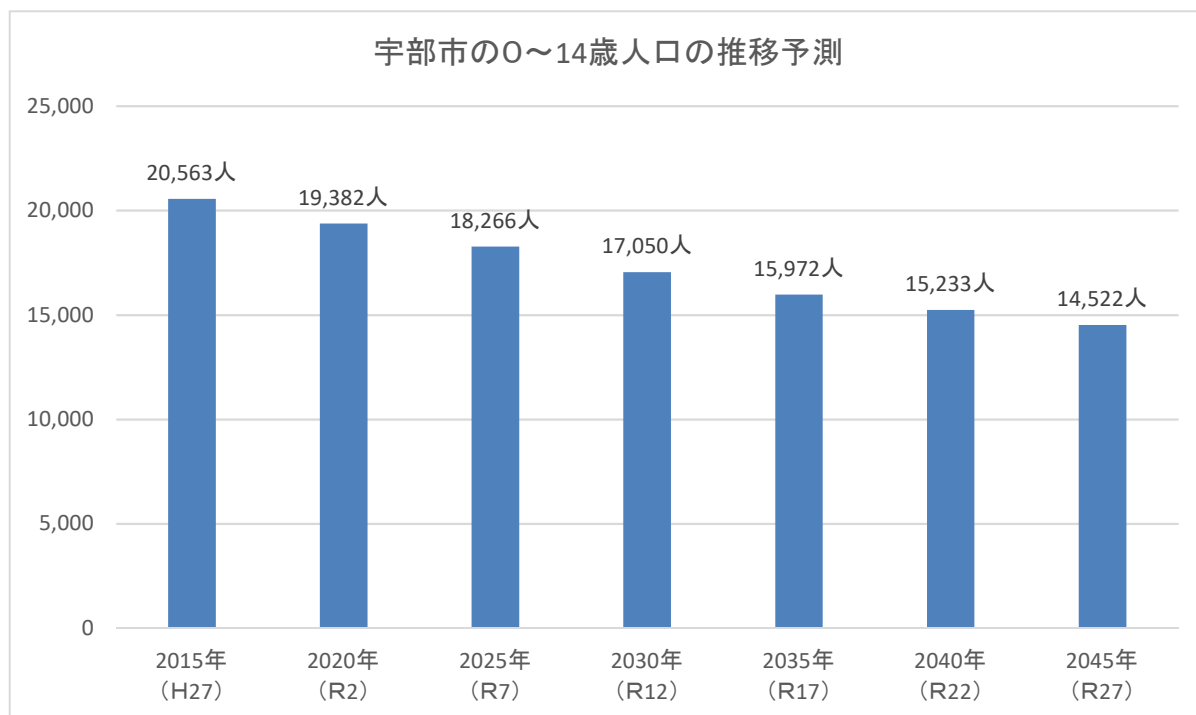
- ・令和3年度の小学校1人当たりの児童数は、18人から693人と大きく開きがある。
- ・中学校は平成28年度から小野中と厚東中を厚東川中として統合し、13校から12校に減少したが、厚東川中の生徒数は55人で1学年1学級、1学級あたりの人数は20人以下となっている。



Ⅱ 小中学校の将来推計

(1) 本市の将来推計人口

- ・国立社会保障・人口問題研究所が取りまとめた将来推計人口では、本市の人口は令和 2 年から令和 27 年の 25 年間で 32, 351 人の減と推計
- ・このうち 0 歳から 14 歳までの人口は 4860 人の減で 25 年間で 25%減少する見込み。



出典：「日本の地域別将来推計人口（平成 30 年(2018)年 3 月推計）（国立社会保障・人口問題研究所）」

(2) 児童生徒数と学級数予測

各小中学校の新生入学生・生徒数の予測表

学校名	建築年	(A)	4	5	6	7	8	(B)	増減率 A-B/A
		3年度 生児 徒童 数	年度 生児 徒童 数	年度 生児 徒童 数	年度 生児 徒童 数	年度 生児 徒童 数	年度 生児 徒童 数	年度 生児 徒童 数	
東岐波小	S52.60~62	580	554	527	516	525	487	463	-20.2%
西岐波小	H18~20	680	680	633	635	596	558	525	-22.8%
恩田小	S41・43・59・60	693	685	704	681	689	658	649	-6.3%
上宇部小	S51~54・58・59	633	624	619	592	596	607	623	-1.6%
岬小	H30	179	158	156	144	134	130	121	-32.4%
見初小	S57~58	98	98	94	95	93	89	83	-15.3%
琴芝小	H4~7	283	309	349	381	413	425	424	49.8%
神原小	S38~42	343	331	309	287	252	208	187	-45.5%
新川小	S43~44・H27	479	464	447	415	402	372	348	-27.3%
鶴ノ島小	S38~41	133	132	125	122	109	103	93	-30.1%
藤山小	S35~39・49・53・55	528	520	513	499	481	462	469	-11.2%
厚南小	H10~12	559	573	582	572	571	571	548	-2.0%
原小	S43・53	289	300	286	291	296	300	314	8.7%
厚東小	S54	62	66	60	60	61	50	52	-16.1%
二俣瀬小	H10~11	25	25	20	18	20	18	17	-32.0%
小野小	H9	18	18	19	15	10	8	8	-55.6%
常盤小	S52・53・55	438	450	451	447	432	444	443	1.1%
小羽山小	S55~59	327	305	291	289	250	265	256	-21.7%
西宇部小	S55・56・H元	279	287	270	272	266	259	245	-12.2%
川上小	S63~H1・H17	436	411	389	365	344	313	285	-34.6%
黒石小	H6	678	683	696	682	695	690	721	6.3%
吉部小	S59	23	21	23	19	18	15	15	-34.8%
万倉小	S57	30	29	28	24	23	22	21	-30.0%
船木小	S63	135	129	132	119	123	116	103	-23.7%
合計		7,928	7,852	7,723	7,540	7,399	7,170	7,013	-11.5%
東岐波中	S48・50・57・H4	306	303	308	317	287	277	263	-14.1%
西岐波中	S47~49・54	426	448	487	495	521	488	488	14.6%
常盤中	S44・45・58・59	481	535	505	540	528	558	538	11.9%
上宇部中	H14~17	408	423	459	495	470	446	413	1.2%
神原中	H5・7・8	191	206	208	206	206	214	224	17.3%
桃山中	S36~40・H3・4	288	359	391	441	449	421	397	37.8%
藤山中	S53・61・62	325	328	309	325	325	332	317	-2.5%
厚南中	S36~38・51・57	403	400	446	446	443	414	424	5.2%
川上中	H元・2	241	239	239	237	209	196	183	-24.1%
黒石中	H3	413	453	473	499	487	498	480	16.2%
楠中	S53	95	95	93	106	94	91	84	-11.6%
厚東川中	H23・24	55	44	53	52	53	51	43	-21.8%
合計		3,632	3,833	3,971	4,159	4,072	3,986	3,854	6.1%

※3.5.1現在の学齢簿システムの数値による。

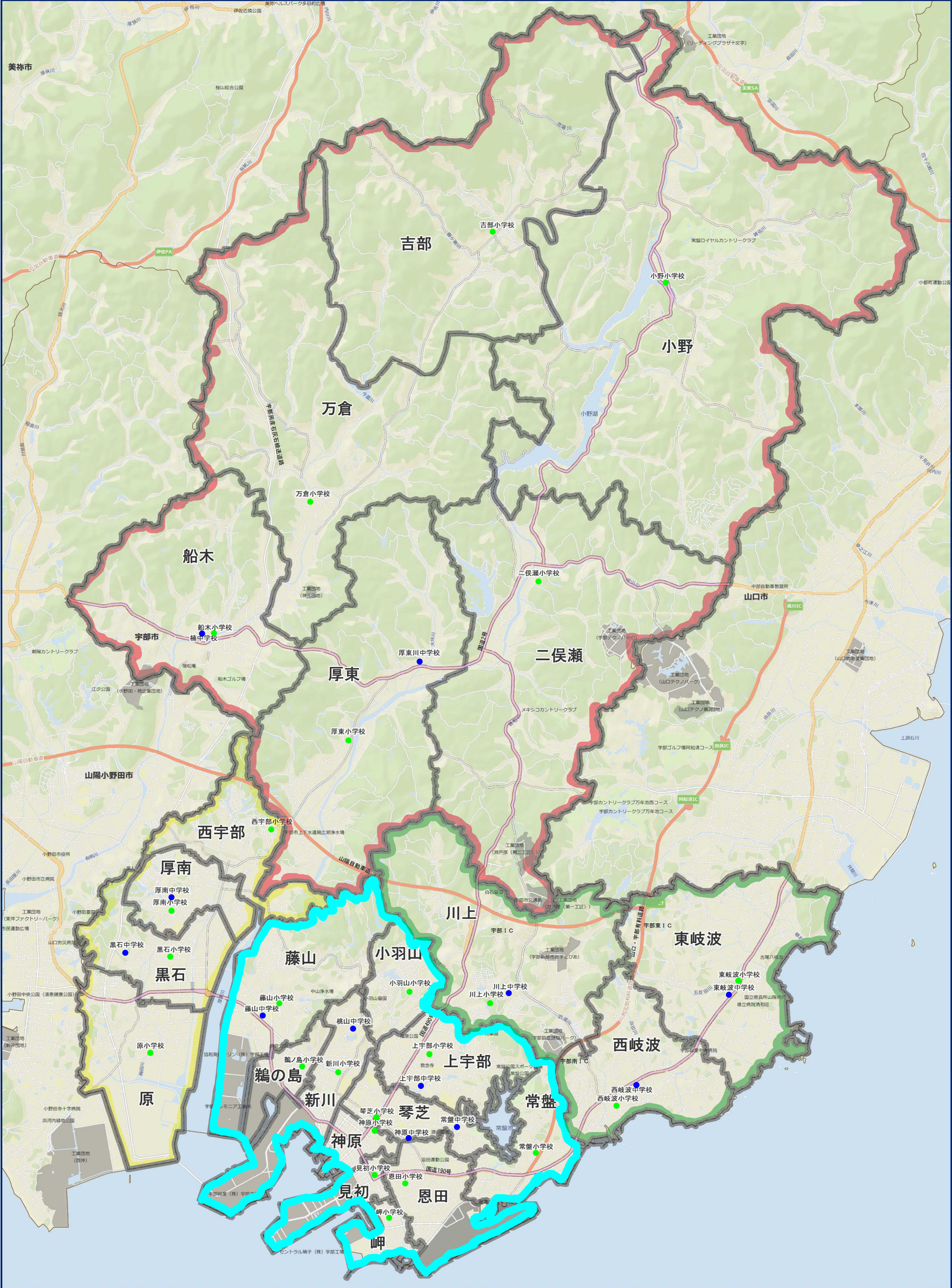
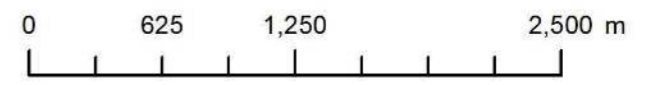
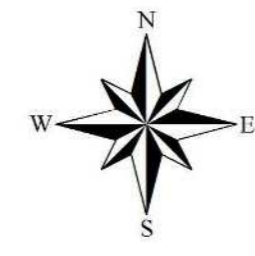
※小学校は選択制及び特認校制度を利用しないものとし、中学校は私学へ進学しないものとしての数字である。

※校舎の建築年は、主に使用している校舎(体育館除く)

令和9年度の学級数と児童・生徒数予測

小学校名 (児童数)					校数	学級数	校数	中学校名 (生徒数)		
					1	2	0			
複式学級		万倉 (21)	二俣瀬 (17)	吉部 (15)	3	3	2	厚東川 (43)	楠 (84)	1学級/学年
					0	4	0			
					0	5	0			
岬 (121)	船木 (103)	鶉ノ島 (93)	見初 (83)	厚東 (52)	5	6	1	川上 (183)	1~2学級/学年	
					0	7	0			
					1	8	1	神原 (224)	2~3学級/学年	
					0	9	1	東岐波 (263)		
					1	10	0			
1~2学級/学年		川上 (285)	小羽山 (256)		2	11	1	藤山 (317)		
					2	12	0	3~4学級/学年		
					0	13	3	厚南 (424)	桃山 (397)	上宇部 (413)
					0	14	0			
					1	15	1	黒石 (480)	4~5学級/学年	
					2	16	1	西岐波 (488)	2~3学級/学年	
					1	17	1	常盤 (538)		
					0	18	0	5~6学級/学年		
					2	19	0			
					1	20	0			
					0	21	0			
					0	22	0			
3~4学級/学年		黒石 (721)	恩田 (649)		2	23	0			

- ・令和3年5月1日現在の地区別人口や在籍児童数等をもとに令和9年度の児童生徒数を推計した場合、小学校の児童数は7,013人で令和3年度と比較して約12%の減。
- ・小学校では、完全複式学級が4校、そのうち児童数が10人未満の学校が1校、全ての学年で単学級（クラス替えができない）の学校は5校
- ・中学校の令和9年度の生徒数の推計は、3,854人で令和3年度と比較して約6%の増となるが、私立に進学する生徒数を除くと、約5%の減。
- ・また、小学校の児童数が減少していくため今後中学校の生徒数も更に減少していく見込み。
- ・中学校では、全ての学年で単学級の学校が2校。

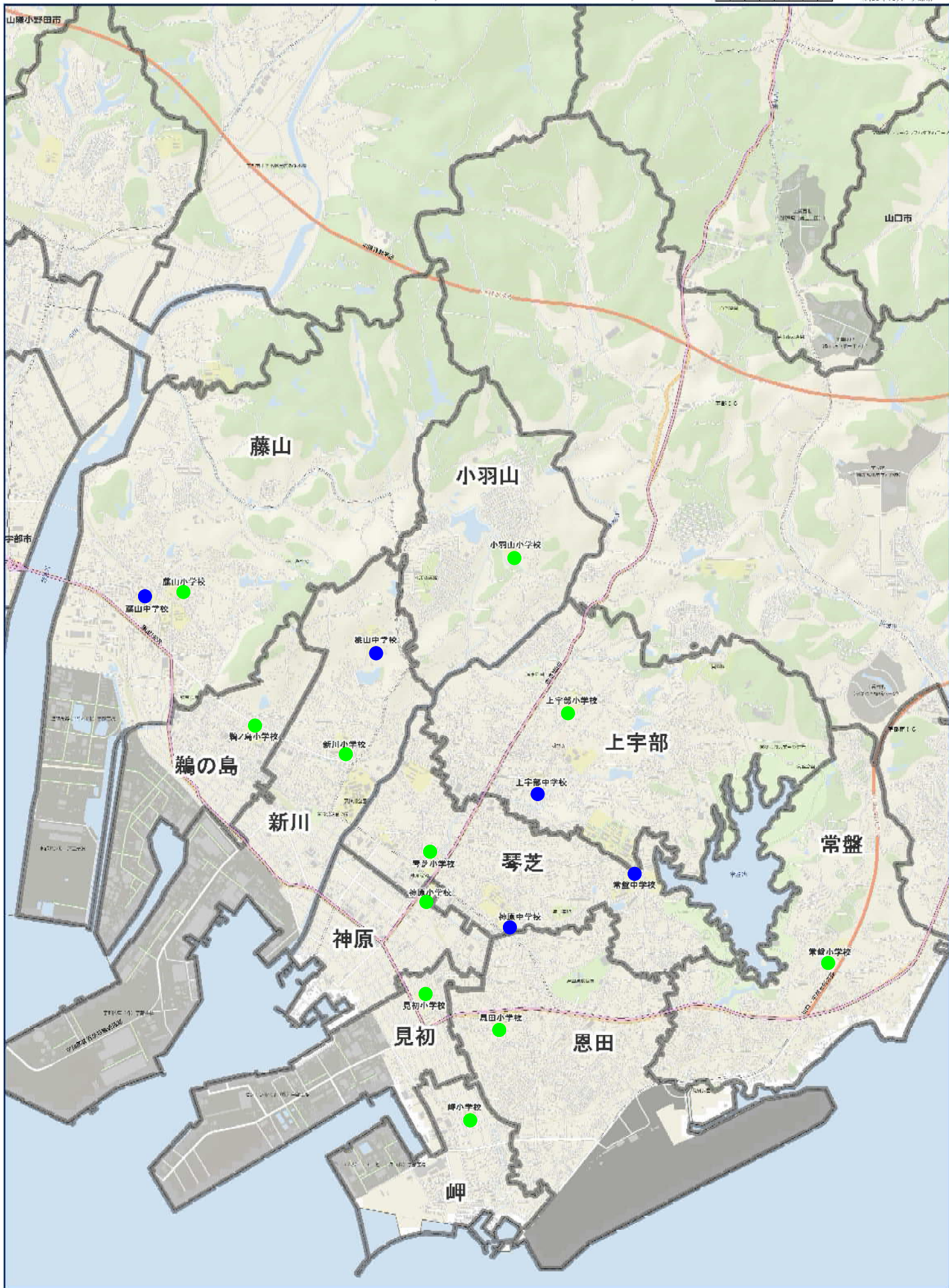


1. 図面はGISソフトを用いて作成されたもので、正確性を保証するものではありません。
 2. 図面はGISソフトを用いて作成されたもので、正確性を保証するものではありません。
 3. 図面はGISソフトを用いて作成されたもので、正確性を保証するものではありません。



1:14,000

0 250 500 1,000 m
 令和3年10月 宇部市



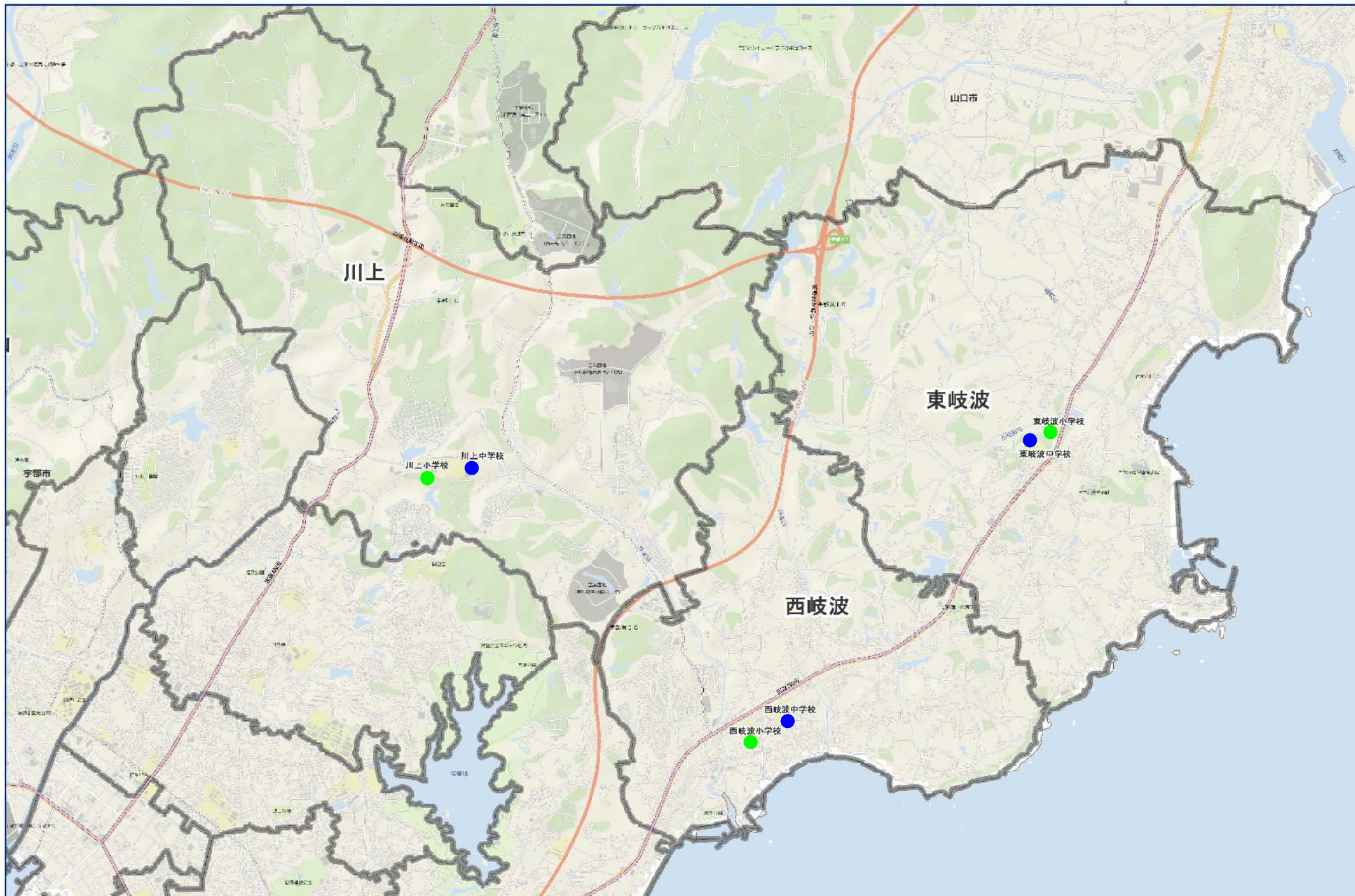
(注) ESRI Japan
提供。二次利用及び複製目的に使用することはお断りいたします。
(本邦産品)

3次元で表示しているデータで、常に更新しており、必ずしも正確でない場合が
ありますので、利用にあたってはご注意ください。また、地名等の公定値の
誤差等は明確に定まっていなかったりする場合も、誤差値として表示しています。



1:14,000

0 50 100 200 m



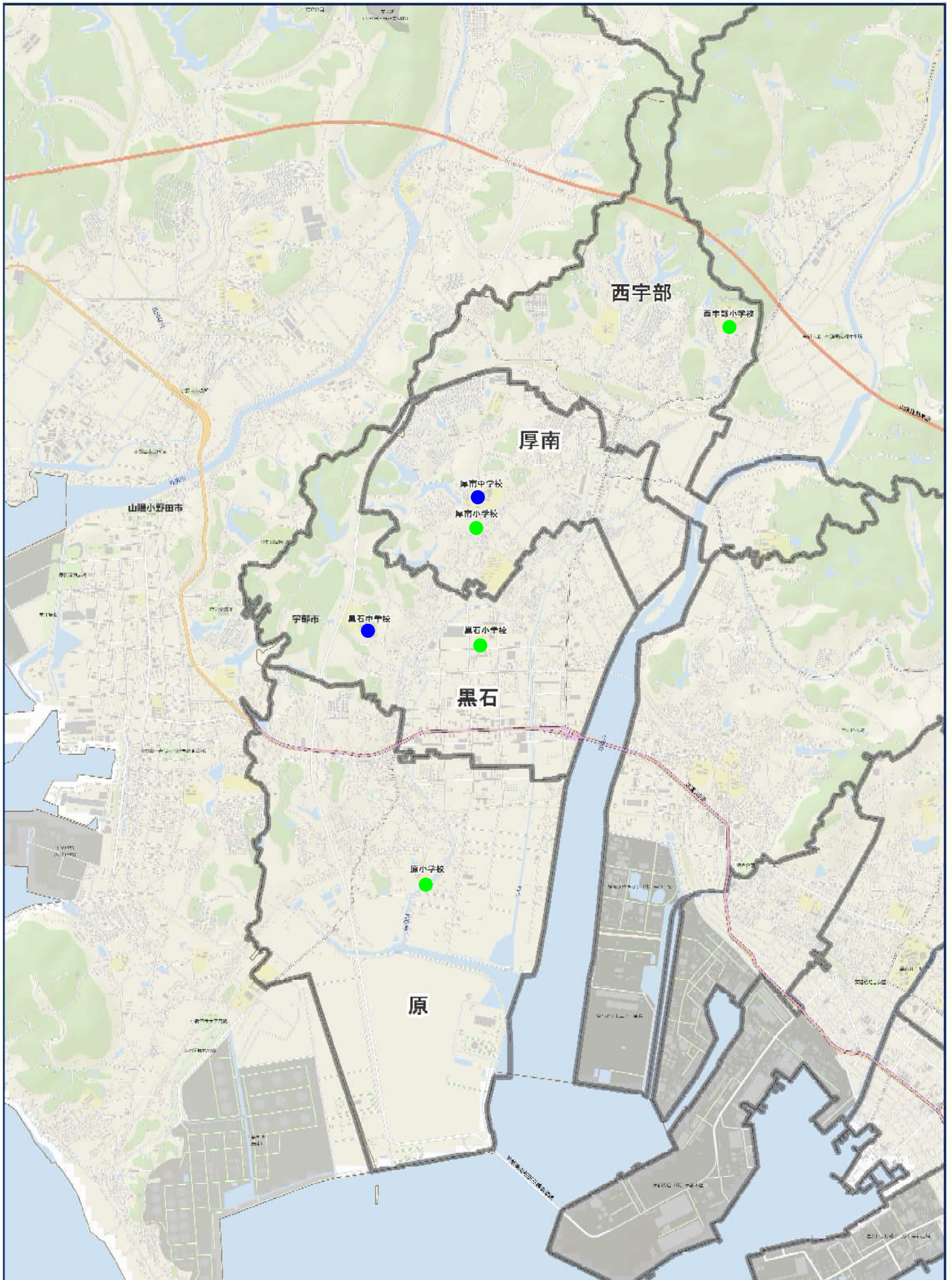
資料5-4
宇部市西部の位置関係を示す地図
宇部市西部の位置関係を示す地図
宇部市西部の位置関係を示す地図



1:14,000

0 250 500 1,000 m

令和3年10月 宇部市



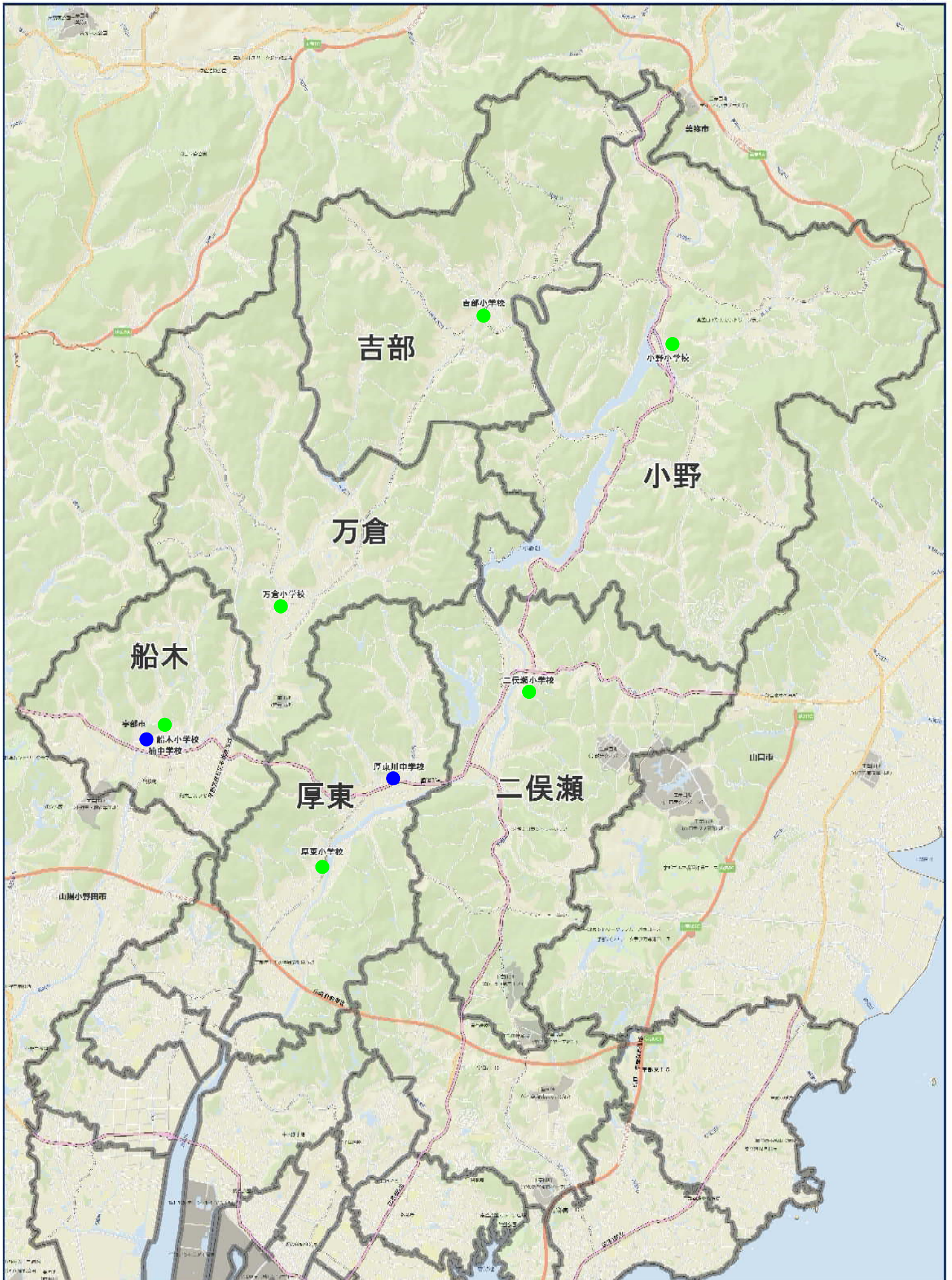
資料5-5
宇部市 北部



1:32,000

資料5-5

0 500 1,000 2,000 m
令和3年10月 宇部市



通学区域の特例制度

1 学校選択制

通学区域の弾力化を図るため、学区の一部の自治会に居住される方が、住所地の属する学区の学校(就学学校)に加えて、隣接学区の学校を選択できる制度です。

選択区域一覧

学区	選択区域	就学学校		選択学校	
		小学校	中学校	小学校	中学校
恩田	7-1区、7-2区、7-3区	恩田	常盤	岬	常盤
恩田	27-4区	恩田	常盤	神原	神原
川上	12区(山口県道6号山口宇部線から南側の住所地に限る。)	川上	川上	西岐波	西岐波
琴芝	1区、1-5区、1-10区	琴芝	常盤	恩田	常盤
				常盤	
琴芝	3区、3-11区、4区、4-2区、15区、40区 40-1区	琴芝	上宇部	神原	神原
新川	15-1区	新川	桃山	小羽山	桃山
鶺ノ島	14-1区、14-2区、57-1区、57-1-1区 57-2区、57-3区、57-4区	鶺ノ島	桃山	鶺ノ島	桃山
					藤山
鶺ノ島	14-1区、14-2区、57-1区、57-1-1区 57-2区、57-3区、57-4区	鶺ノ島	桃山	新川	桃山
藤山	27区	藤山	藤山	小羽山	桃山
万倉	宗方	万倉	楠	船木	楠
万倉	黒五郎	万倉	楠	吉部	楠

2 特認校就学制度

自然や小規模校の良さを活かした特色ある学校運営をしている学校を特認校と認定し、特認校で学びたいという願いにより、就学学校を変更できる制度

○特認校

(1)小学校

・厚東小・二俣瀬小・小野小・吉部小・万倉小・船木小

(2)中学校

・厚東川中